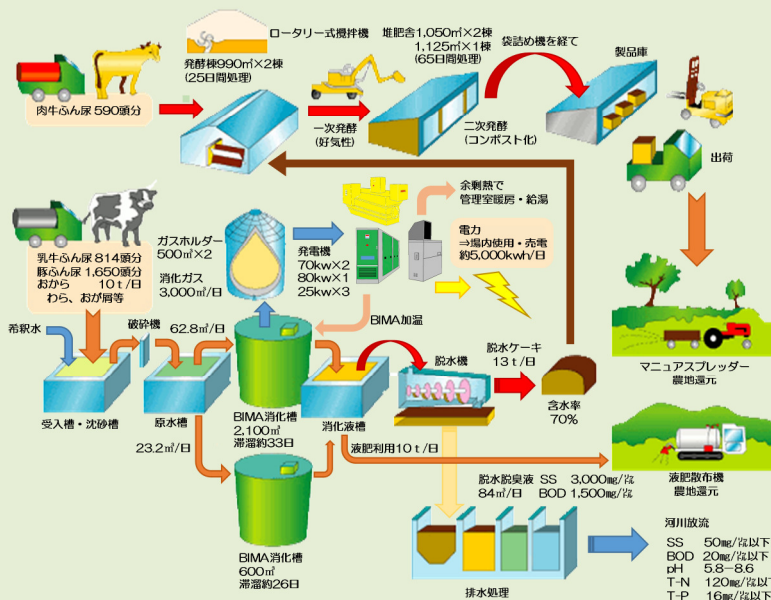


(1) 家畜排せつ物

家畜排せつ物（乳牛ふん尿、肉牛ふん尿）の多くは八木町で発生しており、その大部分の処理は、平成9年に旧八木町に建設された南丹市八木バイオエコロジーセンター（Y B E C）で行っている。八木町以外の園部町、日吉町、美山町ではたい肥センターが整備されているほか、畜産環境整備リース事業等によって、個人でたい肥舎を整備している畜産農家もあり、本市における家畜排せつ物は全てたい肥化され、市内のみでなく、市外においても肥料として利用されている。

南丹市八木バイオエコロジーセンター

- ・ 家畜ふん尿の循環利用を目的に平成9年に整備。
- ・ 湿式メタン発酵施設とたい肥化施設を有し、畜産農家から持ち込まれる家畜排せつ物（乳牛ふん尿）と市内の食品工場から出る食品廃棄物（おから、豆乳、廃牛乳等）からたい肥・液肥を製造。また、メタン発酵施設から出るメタンガスから発電を行い、売電や施設内電力等に利用。
- ・ 平成21年度に「南丹市液肥利用協議会」が設立され、農業者、農協、大学、公社等の様々な会員で構成され、液肥の利用拡大に努めている。



Y B E C 処理フロー

南丹市八木バイオエコロジーセンター
(Y B E C)

- ・ 発電設備：バイオガス発電
(名称:南丹市八木バイオエコロジーセンター)

発電出力：70kW×2基
80kW×1基
25kW×3基

発電電力量：150万kWh/年

- ・ 燃料：地域の家畜排せつ物等
(メタン発酵させて発電)
65.2t/日量最大
(家畜排せつ物・食品廃棄物)

(2) 食品廃棄物

本市では、フードロスの削減、ごみの減量化に努めており、誘致企業（株式会社虎屋、男前豆腐店株式会社、雪印メグミルク株式会社）から出る豆かすや豆乳、廃牛乳等の食品残さをY B E Cにて処理し、再生利用の取り組みを進めている。

一般廃棄物は、隣り合う京丹波町と共同で設置する一部事務組合の船井郡衛生管理組合で収集、処理を行っている。家庭から排出される生ごみは、他の可燃ごみと一緒に収集され、民間事業者（カンポリサイクルプラザ株式会社（C R P））で焼却処理及びメタン発酵処理されている。また、廃食用油回収も行い、市民環境団体や民間事業者と連携してバイオディーゼル燃料（B D F）により、幼稚園送迎バスなどの燃料として利用されている。

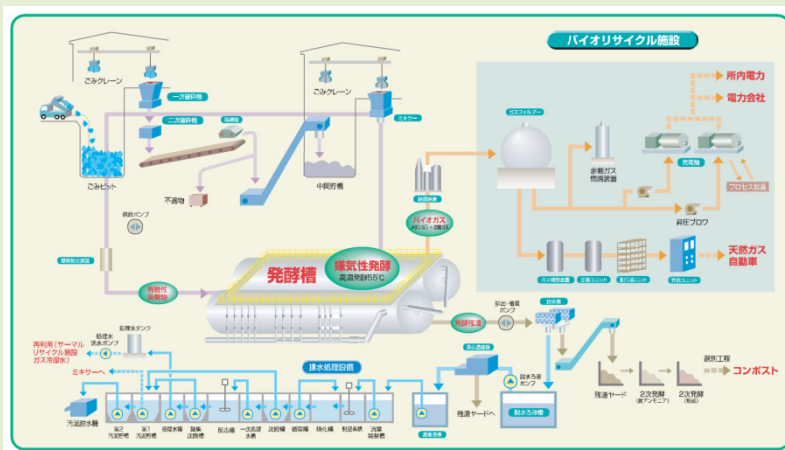
カンポリサイクルプラザ

- ・ 主に食品工場からの食品廃棄物や家庭ごみの循環利用を目的に平成 16 年に整備。
- ・ 乾式メタン発酵施設等を有し、高温の嫌気性発酵により、可燃性のバイオガスの回収及び残さのたい肥への有効利用を図っている。
- ・ 得られたバイオガスは、場内作業車に利用するほか、発電を行い場内電力として利用。また、たい肥についても地元農家へ販売。



カンポリサイクルプラザ
(C R P)

原料	生ごみ、汚泥、剪定枝 など
メタン発酵槽	乾式嫌気性メタン発酵(高温)
ガスホルダー	210m ³
発電機	660kW
バイオガス回収施設	50t/日 24h



C R P 処理フロー

廃食用油のBDF化

- ・ 廃食用油利用のための事業を平成 22 年より実施。
- ・ 廃食用油の回収は、市民環境団体（南丹市の環境を守り育てる会、NPO法人南丹市エコタウン推進協議会）等が中心となって行っており、市役所や支所、公共施設を中心に廃食用油回収拠点を拡大。
- ・ 回収した廃食用油は民間事業者（株式会社レボインターナショナル（レボ社））によりBDFに精製され、幼稚園送迎バスなどの燃料として利用。
- ・ BDFの広域利用に取り組む「京都モデル」の構築を目指し、京都府、京都市、京丹後市、宮津市等と連携して取り組んでいる。



廃食用油
回収拠点



BDF
供給拠点

（３）下水汚泥

本市の保有する汚水処理施設は、特定環境保全公共下水道処理施設、農業集落排水処理施設があり、処理施設からの汚泥のほとんどは、船井郡衛生管理組合が収集・処理している。下水汚泥は、脱水処理をしたあと、し尿処理施設（京都中部クリーンセンター）にて焼却処理や一部民間処理会社へ委託して処理している。また、京都府が設置管理する流域下水道施設では、発生する汚泥をたい肥化、焼却処理されており、当該施設は平成 28 年度に本市へ移管されることとなっている。